

「とちぎの弥生土器」

1. 概要

清六Ⅲ遺跡（野木町）・大塚古墳群内遺跡（栃木市）などから出土した土器を展示し、栃木県の弥生土器の多くが、西日本の弥生土器と異なり、縄文時代の代表的文様である縄文が施されているのが特徴であることを理解してもらおう。

2. 展示資料一覧

	資料名	遺跡名	点数	内容
1	壺形土器	清六Ⅲ遺跡（野木町）	3	再葬の容器に使用された壺形土器。
2	壺形土器 人面土器	大塚古墳群内遺跡 （栃木市）	4	墓（土坑墓）に納められた土器。人面付き土器は楕円形の土坑墓の北側から横向きで発見されたもの。
3	壺形土器	伊勢崎Ⅱ遺跡（真岡市）	1	煮炊きに使用された弥生時代後期の土器。
4	壺形土器	五料遺跡（小山市）	2	古墳時代前期まで残る縄文の付いた土器。
5	弥生土器片	御新田遺跡（壬生町）	2	靱痕が残る土器片
	合計		12	

3. パネル一覧

	パネル名	内容
1	はじめに	導入パネル 栃木県の弥生時代の遺跡と弥生土器の特徴について説明。 ※遺跡位置図
2	大塚古墳群内遺跡と人面付土器	遺跡の紹介パネル。遺跡は栃木市大塚町にあり、弥生時代中期後半の土坑墓13基と掘立柱建物跡と考えられる柱穴列が4棟確認された。特に人面付土器は、1つの遺跡から1個だけ出土することが多いことから、特別な人物の墓だけに納められたもので、死者の安らかな眠りを願ったと考えられている。 ※調査風景、土器出土状況、人面土器出土状況
3	清六Ⅲ遺跡と再葬墓	遺跡の紹介パネル。野木町にある弥生時代中期前半の再葬墓19基からなる当時の共同墓地。再葬墓とは、遺体をいったん埋葬して白骨化させたあと、その骨を再び壺形土器などの容器に入れて土坑（穴）に埋葬する葬法で、弥生時代前半の中部地方から東北地方南部に特徴的に見られる。 ※再葬墓確認状況、再葬の方法（ふるさと栃木の考古学3 弥生時代）



展示風景